

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 4 巻第 12 号

第 12 週 ( 3 月 15 日 ~ 3 月 21 日 )

発行年月日:平成16年(2004年) 3月 26日

発行 行 :滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

\* 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律が平成15年11月5日から施行されました。

### 1) 全数報告の感染症 (1類 ~ 5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (12週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀	全国	滋賀	全国 <sup>(*)</sup>
			(12週)	(12週)		
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	3	72	7	459
	パラチフス	0	0	3	0	38
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	86	8	2635
4類感染症	エキノコックス症	0	0	9	0	17
	オウム病	0	0	6	1	44
	ツツガムシ病	0	0	47	2	380
	レジオネラ症	0	0	24	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	2	114	3	504
	ウイルス性肝炎	0	0	54	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	36	3	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	13	0	52
	後天性免疫不全症候群	0	1	190	8	949
	梅毒	0	2	101	2	493
	破傷風	0	0	11	1	69
	急性脳炎	0	0	4	0	98

(\*) 平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

### 2) 定点把握の対象となる5類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	1.71	3.27	0.80	0.57	0	2.43	1.60	4.67	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.09	0	0.17	0	0	0.50	0	0	
A群溶連菌咽頭炎	1.39	0.29	1.50	3.50	2.00	0	0.20	5.00	
感染性胃腸炎	8.70	12.29	21.17	4.25	3.20	4.25	2.00	7.00	
水痘	1.85	1.43	3.17	0.25	1.80	3.50	0.80	2.00	
手足口病	0.12	0.14	0	0	0.40	0	0	0.50	
伝染性紅斑	0.15	0.14	0.17	0.50	0.20	0	0	0	
突発性発疹	0.39	0.71	0.83	0	0	0.25	0.20	0.50	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.06	0.14	0	0	0.20	0	0	0	
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.79	0.57	1.00	1.00	0.20	1.00	1.40	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>) において公表されています。

### 3) 今週のトピックス

#### 流行性耳下腺炎の発生は急増 感染性胃腸炎の発生は5週間ぶりに減少

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(3月8日～3月14日)の報告数よりさらに減少しています。また、定点当たり患者数については、水痘、流行性耳下腺炎等で増加し、インフルエンザ、A群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、伝染性紅斑等で減少しています。

**インフルエンザ**については、先週の定点当たり患者数 3.84よりさらに減少し1.71となり、全国の発生状況についても第5週(1月26日～2月1日)をピークとし減少傾向となっています。

**A群溶連菌咽頭炎**については、先週の定点当たり患者数 2.00より減少し1.39となっていますが、昨年の同時期の定点当たり患者数 0.47よりかなり多くなっています。特に、**今津保健所**管内の定点当たり患者数は5.00と多くなっています。

**感染性胃腸炎**については、先週の定点当たり患者数 10.52より減少し8.70となっていますが、**草津保健所**管内においては21.17と多くなっています。また、5週間ぶりに定点当たり患者数は減少していますが昨年の同時期よりかなり多くなっていますので、引き続き感染予防に対する十分な注意が必要です。

#### < 感染予防について >

##### ・十分な手洗い

せっけんを使用し、流水で10秒以上、十分に指をこするようにして洗う。  
食事の前、トイレの使用後、汚物の処理後には必ず手を洗う。

・手を拭く時は清潔なタオル、ハンカチを使い共同では使用しない。

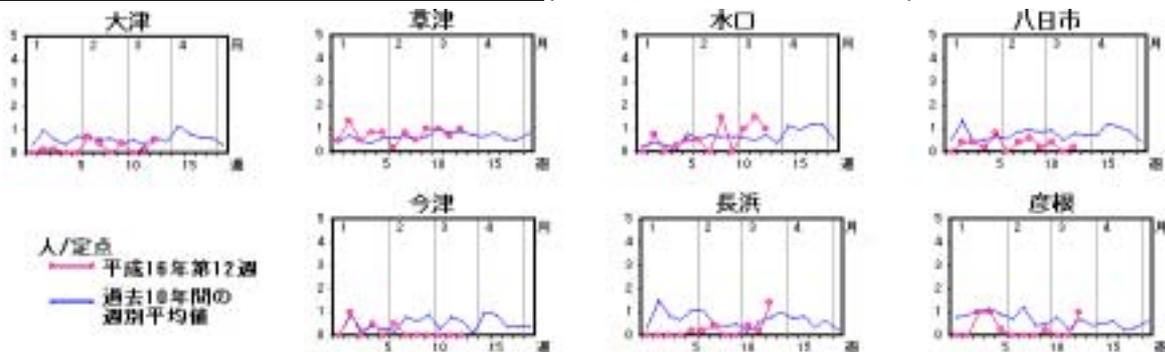
・汚物(下痢便、吐物など)を処理する時

ゴム手袋やマスクを使用し、周辺に拡散しないようにして消毒する。

**水痘**については、先週の定点当たり患者数より増加し、**草津、彦根保健所**管内でやや多くなっています。

**流行性耳下腺炎(ムンプス、おたふくかぜ)**については、先週の定点当たり患者数 0.36より急増し0.79となっています。

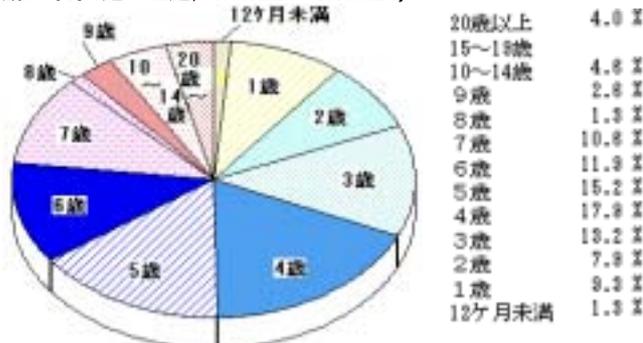
#### 流行性耳下腺炎の保健所管内別発生状況(平成16年第12週, H16.3.15～H16.3.21)



平成16年第12週の各保健所管内の定点当たり患者数を過去10年間の週別平均値と比較すると、水口、彦根、長浜保健所管内で多くなっています。

#### 流行性耳下腺炎の年齢別発生状況

(平成16年第1週～12週, H15.12.29～H16.3.21)



#### < 流行性耳下腺炎のミニ知識 >

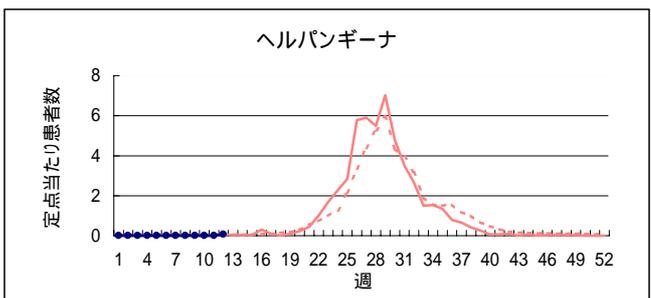
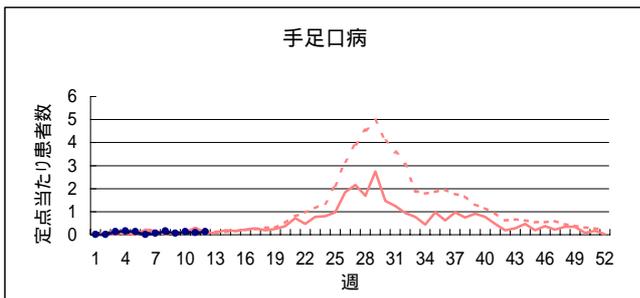
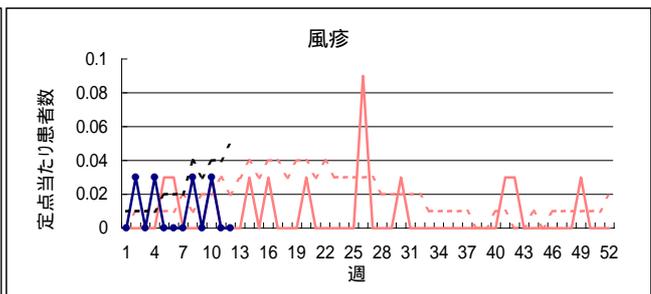
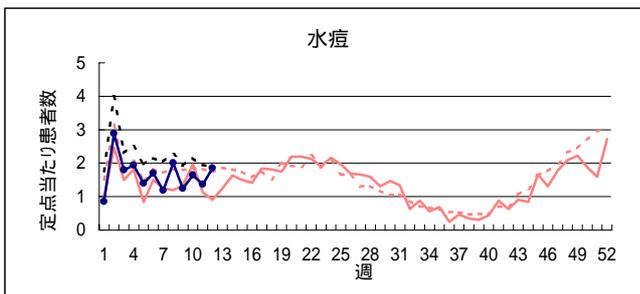
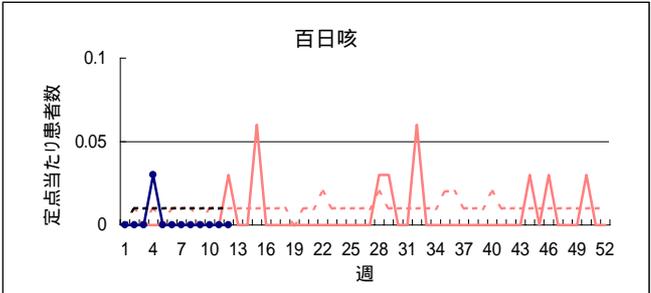
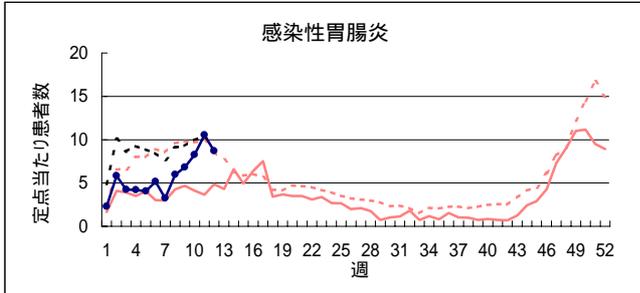
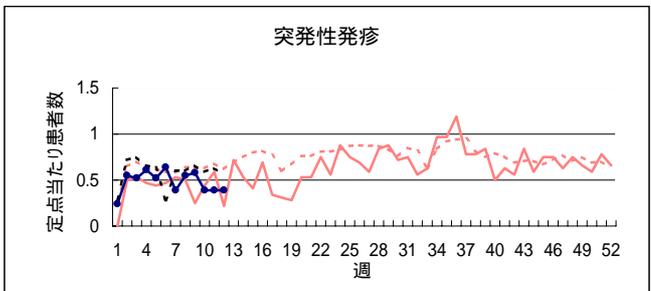
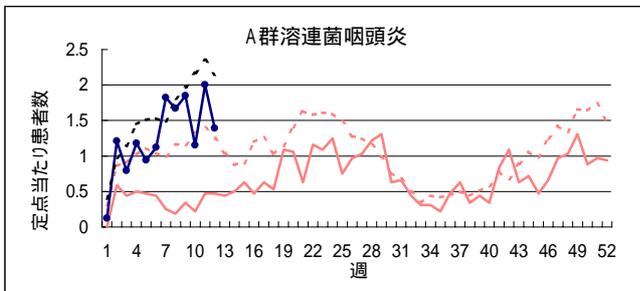
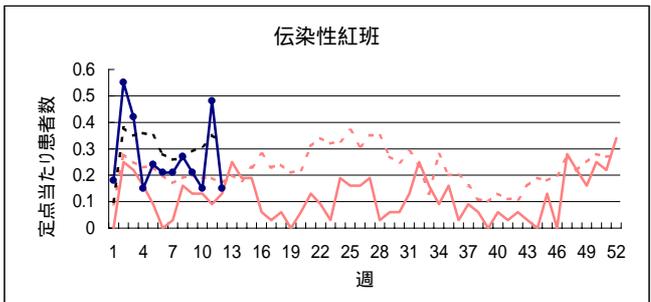
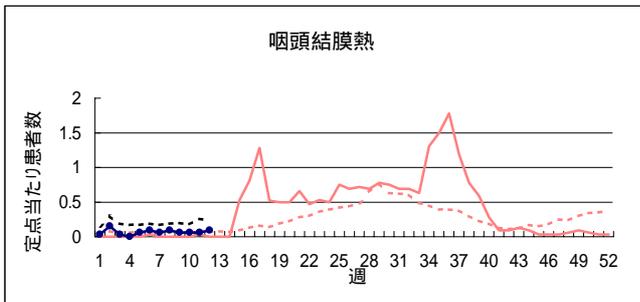
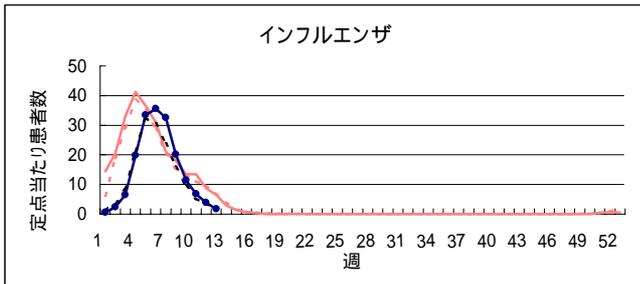
ムンプスウイルスに感染することにより起こる疾患で、年齢別の発生状況は4歳以下に多く発生し、4歳、5歳、3歳の順に多くなっています。また、3～6歳で約60%を占めています。

- ・感染様式: 唾液を介する飛沫感染
- ・潜伏期: 2～3週間(平均18日前後)
- ・感染期間: 発病数日前～症状出現後5～7日
- ・臨床症状: 唾液腺の腫脹・圧痛、嚙下痛、発熱
- ・合併症: 髄膜炎(最も多い)、髄膜脳炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴、瞬炎

- ・治療: 対象療法
- ・予防: ワクチン接種
- ・登校、登園のめやす:

耳下腺の腫脹が消失した後

# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第12週)



# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第12週)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H16 〔 滋賀 ●——● 全国 ..... 〕

